

鐘楼

伊勢崎市立北小学校学校運営協議会だより 第5号

平成30年7月13日：伊勢崎市立北小学校学校運営協議会

北小学校ホームページアドレス：<http://www.isesaki-school.ed.jp/kitasyo/>

☆第1回学校運営協議会開催

5月22日（火）、本年度のスタートとなる第1回学校運営協議会が北小学校赤石楽舎を会場に行われました。

1回目は、教育委員会からの委嘱状交付や役員の選出の他、北小学校の学校経営に関する協議や本会の今年度の取り組みなどについて話し合いがもたれました。北第二小学校の小池千秋校長と群馬大学大学院准教授 高橋 望 氏にオブザーバーに加わっていただくことになりました。本年度の委員については、下記の通りです。

本年度の北小学校学校運営協議会の活動としては、本年度も「あいさつのできる子の育成」「いじめ防止」「家庭学習の充実」を課題とし、下記のような取組を考えています。

- 「あいさつのできる子の育成」については、本年度も平成28年度に作成した「あいさつポスター」の掲示拡大をすすめる。
- 「いじめ防止」については、啓発活動として昨年度作成した「いじめ防止カレンダー」を本年度も作成する。（本年度は、学校関係の行事を入れること、4月スタートのカレンダーにすることなどを検討しています。）
- 「家庭学習の充実」については、毎年実施している「保護者を対象とした家庭学習に関するワークショップ」を実施する。

この3点の他に本年度の新しい試みとして、この学校運営協議会通信「鐘楼」を通して各委員の考えなどを発信していくことにいたしましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

会 長 芝崎和子（曲輪町3区区長）
副会長 浅野正史（北小PTA会長）
相澤千絵美（北小PTA副会長）
新井恵子（放課後こども教室コーディネーター）
正田清江（北公民館長）
関根紀男（北地区子ども育成会会長）
高橋真知子（子ども日本語教室・未来塾代表）
平岡さつき（共愛学園前橋国際大学 教授）
丸岡良三（北地区民生児童委員）
矢島 正（群馬大学大学院教育学研究科 教授）
山田千広（放課後児童クラブ「こどもサポート」運営スタッフ）
西田 修（北小学校 校長）



*オブザーバー 小池千秋（北第二小学校 校長）、高橋 望（群馬大学大学院准教授）

☆委員からの声（2回に分けて委員の声を載せていきたいと思ひます。）



「北小学校のよいところ」 高橋 真知子 委員



北小学校のよいところは、地域の中の学校として開かれているということです。明確な学校運営理念があり、保護者や地域の人たちがお互いに協力し合う「協働」が実践されているところです。学校を訪問するたびに、児童の皆さんの元気な挨拶、清潔な校舎、教室や廊下のすばらしい掲示物などに感心します。北小の雰囲気は、明るくて秩序あるエネルギーにあふれている感じがします。これからも開かれた学校で子どもたちを育てていただきたいと思います。

「学校運営協議会委員になって見えてきたこと」 正田 清江 委員



教育の専門の人や地域の人たちと協力して、更に良い学校を目指しているところが素晴らしいと思います。未来の日本を支える児童の皆さんを地域で見守り、また、微力ながら北小発展のため協力していきたいと思います。



「北小学校のよいところ」 山田 千広 委員



「落ち着きがある」と、思います。たぶん、北小だけを見ているとなかなか気がつかないことですが、他の小学校でも学童を運営し、他の小学校の行事や生活の様子をみると、北小は落ち着きがあると感じます。一斉下校のとき、行事の入退場のときなど特にそう感じます。先生方の目が行き届き、大きな声を出すことなく適切な声掛けができてから、そういう雰囲気を作れるのかなあと思っています。そこに、保護者や地域の方がもっとかかわっていけば、さらに良い学校になるのではないかと思います。私は、地域の代表として運営委員になっています。特認区があっても、北小も地域の学校です。学校をよりよくするため地域の人として、もっと関わりを持っていきたいと思います。

「北小学校の児童へのエール」 矢島 正 委員



伊勢崎市の町にお殿様がやってきて新しい「伊勢崎藩」ができたのは今から約350年前の江戸時代のはじめのころでした。お殿様が住む「御殿」のあった場所は、お城のような形であったため「曲輪町」と呼ばれます。時が経って約250年、天明3年（1783年）に浅間山が大噴火しました。その被害はとても大きく、農作物もとれなくなって人々は大変な苦しみをしました。伊勢崎の町も大きな被害を受けて人々は生活に困りましたが、伊勢崎藩もお金がなくなって、つぶれそうなるまで追い込まれました。その時に、藩主（殿様）だった酒井忠温（さかいただはる）公は、家臣と相談し無駄なことを減らし、お金の使い方を工夫することで、なんとか藩を立て直そうとしました。

忠温公が新しく考えたことの一つに「藩の武士（さむらい）」に学問を学ぶ場所をもうけてしっかり勉強に取り組みせ、藩全体が世の中のことや人々の暮らしについてよく考えて、うまくいくようにしようという政策がありました。そのため、伊勢崎藩では、この時に藩の学校をつくることになりました。その学校の名前は、「学習堂」といいます。その「学習堂」のあったところに後の明治時代になってつくられたのが「赤石学校」です。

つまり、今の伊勢崎北小の前身になった学校です。今、北小で学んでいるみなさんは、人々の暮らしをよくして学問を広めようと考えてつくられた「学習堂」の伝統を引き継いでいるわけです。みなさんは、そうした学校で学ぶことに誇りをもって今まで以上にもっと勉強や運動に取り組んで欲しいと思います。

